

# 翼

## 空港圏の明日へ

町長 佐藤 晴彦



開港から30年、成田国際空港は世界各国の人々で溢れかえっている。1日の利用者約10万人、従事する者約5万人、まるで別世界のような。昭和41年7月、大自然の中に突如沸き起こった計画に大変な難産から生

まれた空港も40余年の月日の中で地域住民も徐々に打ち解けられていくように感じています。

2本の空路の直下を有する当町に於いても、騒音被害、落下物被害などが存在しておりますが、航空機の性能向上と整備の徹底などにより現在ではこれらの被害もかなり減少しております。また、毎年4億円を越す交付金は貴重な財源の一部となっており、当町への恩恵は計り知れないものがあります。

今月からしばらくの間、成田国際空港と横芝光町との係わり合いの現状そして将来に向けてどのような関

係を構築していけば良いのか、「広報よこしばひかり」をとおして町民の皆様へお伝えすることいたしました。

現在、成田空港圏は成田市・山武市・香取市・富里市・芝山町・多古町・神崎町・栄町そして横芝光町の9市町で構成され、千葉県・国土交通省・成田国際空港株式会社加わりいろいろな問題や地域の発展について協議しております。特に昨年1月に発足した「成田国際空港都市づくり推進会議」は成田国際空港のポテンシャルを最大限に活かした地域づくりを協議する場として、9市町が地域で空港を支え、育て、各々が空港があるメリットを実感できるまちづくりを推進することを目的としたもので、以前からあつた協議会とは9市町が空港を支えるという点で異なるものと捉えております。その背景には、羽田空港の第4滑走路建設に伴う国際便枠の増便や、韓国のインチョン空港、中国の上海空港、香港空港などの整備拡充が進み、成田



意見交換会（ドイツ・フライジング市にて）

国際空港の東アジアでのハブ空港としての優位性に陰りが見え始めるなどが掲げられ、騒音障害防止特別地区を有する当町ではあるものの、成田国際空港都市づくり推進会議に積極的に係わり、町発展に繋げてまいりたいと考えております。

そのような中、9市町首長（山武市は副市長）千葉県1名、国土交通省1名、空港会社4名、事務局（成田市）1名、新聞記者（読売新聞）1名の計17名で視察団を組織し、昨年11月11日から16日の4泊6日を掛け、ドイツのミュンヘン空港とロンドンにあるヒース

ロー空港に行つてまいりました。

この2つの空港は成田空港と同じ2本の平行滑走路で、さらには内陸空港で市街地を騒音直下に持ちながら、離発着回数が成田空港（約20万回）の2倍を超えております。成田空港は現在建設中の北伸工事が終了する平成22年3月には22万回の関係自治体との合意がなされており、更なる増便が空港の発展をもたらさし、ひいては地域の発展に繋がるものと確信しております。そしてこの視察がもたらした貴重な体験を踏まえ一層の空港と地域が互いに支えあう関係への構築に寄与できよう努力を重ねてまいります。

今回はミュンヘン空港周辺自治体のフライジング市・オーバーディング町・ハルベルクモース町での詳細について載せさせていただきます。